

第13回革新的研究開発推進会議 議事概要

- 日 時 平成27年4月16日（木）9：50～9：59
- 場 所 中央合同庁舎8号館 4階416会議室
- 出席者 山口大臣、松本政務官、原山議員、久間議員、
内山田議員、小谷議員、中西議員、橋本議員、平野議員
- 事務局 阪本内閣府審議官、森本統括官、中西審議官、中川審議官、松本審議官、
真先参事官、福嶋参事官

○ 議事概要

午前9時50分 開会

○久間議員 ただいまから第13回革新的研究開発推進会議を開催させていただきます。

なお、本会議も引き続き公開で行います。

本日の課題は、革新的研究開発推進プログラム（I m P A C T）の新規公募についてです。先週4月10日に開催されました第8回総合科学技術・イノベーション会議におきまして、I m P A C Tのプログラム・マネージャー（PM）の新規公募を進めることになりました。

I m P A C Tという我が国にこれまでになかった取組を成功させるべく、昨年6月に12名のPMを決定した後も、我々もともに知恵を絞りながら、研究開発プログラムを作り上げ、実施の段階に至ることができました。

このたびの公募に当たって、この経験を生かしながら、更に優れたPMを増やしていきたいと考えております。

本日は、これより新たなPMを公募及び選定するに当たっての方針、並びに進め方についてお諮りいたします。

では議事に入る前に、大臣から一言御挨拶をいただきたいと思います。

○山口大臣 引き続き御苦勞でございます。おはようございます。

このI m P A C Tにつきましては、今月10日、総合科学技術・イノベーション会議において御了解をいただきまして、プログラム・マネージャーを新規に公募することにいたしました。

これまでの12PMの活動を通じて、PM像を具体的に示すことによって、その意義、重

要性についての認識が社会に浸透するように努めているところでございます。また我々もPMの選定からプログラムの作り込みの過程を通じて、経験を蓄積することができたわけでありまして、これを活用して、I m P A C Tを更に進化させていきたいと考えております。

本日は、将来変化を大胆に先取りして、果敢にイノベーション創出に挑戦する新たなPMの選定に向けて、公募や選定の基本的な方針について、御議論をお願いいたしたいと思っております。

どうぞよろしくお願ひいたします。

○久間議員 どうもありがとうございました。

それでは、早速議事に入ります。

まず事務局より、PMを新たに公募するに当たっての方針について説明してもらいます。

○福嶋参事官 I m P A C T担当参事官の福嶋でございます。

本日配付させていただいている資料の中で、今回のPMの新たな募集に関する基本的な方針に関する本体資料は資料1、2でございますが、お配りしております参考資料、A4横長のI m P A C Tプログラム・マネージャー新規公募の概要、この資料に沿いまして御説明させていただきます。

参考資料を御覧ください。

1の公募の趣旨でございますが、科学技術イノベーションの大変革時代にあつて、I m P A C Tの制度創設、12名のPM決定に満足することなく、現在議論が進められております第5期科学技術基本計画の方向性を先取りした具体的アクションが重要であると考えます。

そこで国内外の諸情勢の変化を踏まえながら、将来の方向性を先取りし、I m P A C Tの趣旨に適合するものを、先行的・先導的に取り上げていくため、果敢に挑戦する若干名の優れたPMを新たに採択するというのが基本的な考え方でございます。

2として、PM募集の進め方といたしまして、求める構想は、昨年2月に策定いたしました「革新的研究開発推進プログラム運用基本方針」に定められた五つのテーマ、これは2ページ目でございますけれども、この五つのテーマを踏襲しつつ、審査に当たりましては、①といたしまして、将来変化を大胆に先取りし、今後のイノベーションの潮流になると見込まれるもの、②といたしまして、国家存立の基盤にかかわるような国家的重要課題に対応するもの、こういった観点を重視したいと考えております。

また新たに選定いたしますPMの数と予算規模につきましては、特に優れたPM若干名、三、四名程度を上限と考えております。1PM当たりの研究開発プログラム構想の予算規模につきましては、10から15億円程度と考えておりますが、採択後、作り込みを経て、予算総額を調整したいと考えております。

また審査に当たりましては、面接審査を重視いたしまして、I m P A C Tの趣旨に適した構想か、PMとしての資質は優れているかを、より適格に審査することとし、前回1回だった面接審査を2回行う予定にしております。

3として、今後のスケジュールでございますが、公募期間といたしまして、明日、4月17日から公募を開始し、公募期間をしっかりと確保した上で、6月5日を締め切りにする予定で考えております。その後、審査プロセスを経て、新たなPMの決定につきましては、8月以降を予定しております。

前回の公募におきましては、180件の応募が寄せられまして、書面審査、面接審査を経て12名のPMを選出したところでございますが、今回もしっかりと周知を図りながら進めてまいりたいと考えております。

資料3として、公募要領もお配りしてございます。詳細については御説明を省きますが、提出書類様式など、これまでの12PMとのやりとりの経験を踏まえて、概要説明資料を見直すなど、所要の改良を行っております。また前回は書面での申請でございましたが、今回は電子申請としまして、審査においてもタブレットを活用するなど、IT化を進めていきたいと考えております。

以上でございます。よろしく御議論をお願いいたします。

○久間議員 どうもありがとうございました。

それでは新たな公募の方針につきまして、御意見等ありましたらお願いします。

○原山議員 一番最初にI m P A C Tを作ったときは、本当に産みの苦しみが多分にあったのですけれども、それをかなり乗り越えたということで、今回、公募のかけ方そのものも、かなりやりやすい、また的確に把握できるものにしたと思うのですが、更に改善も必要になると思います。その辺も注意しながら進めていただければと思います。

○久間議員 ありがとうございます。

○山口大臣 前回に比べたらどれぐらい公募期間は違うのですか。

○久間議員 公募期間は前回に比べると長くしています。

○福嶋参事官 前は、3月7日から開始しまして、概要書類の締め切りを3月末にしております、最終的な締め切りはもうちょっと後までだったのですが、そういう意味で今回は4月17日から6月5日まで、しっかりっております。

○中西議員 テーマそのものプラスPMの選定というのはすごく大事なことで、その時間はきちんと確保したほうがいいという反省はあります。

○久間議員 前回の公募でも、中身は非常にいい提案であるし、後援者として良い研究者もついていたけれど、PMの評価が芳しくなかったために採択しなかった例がありました。採択の決め手はPMということです。

○中西議員 それは従来とかなり違う形だと思うのです。

○久間議員 その通りです。

○中川審議官 今のような御議論があって、前回の申請と全く違うのは、この審査の経験を経たということと、PMとともに作り込みを久間先生のもとやって、この前、フォーラムもございました。それで前回の公募のときは、申請する側も従来型のプログラム、産学連携プログラムとの違いというのがわからずに、従来型のプログラムのような提案がたくさん出てまいりました。

今回は、今、中西議員がおっしゃられたように、全く違うPMを選ぶものであるというイメージが、具体的なPMの12人というのが出ましたので、こういうものがモデルであるよという、これまでできましたパンフレットとか、PMの姿とか、こういったものを合わせて申請のときに周知をしていくという工夫を考えておるところでございます。

○久間議員 ありがとうございます。

それではよろしいでしょうか。

I m P A C Tプログラム・マネージャーの新たな募集につきましては、案のとおり決定したいと思います。また公募要領の細部につきましては、私と原山議員に御一任いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。

新規募集の公募の機会を活かしまして、将来の変化を大胆に先取りし、経済や社会に大きなインパクトを与えるべく果敢に挑戦する優れたPMを採用したいと思います。また従来からの12名のPMの研究開発プログラムにつきましても、引き続き進捗状況を適切に把握

しながら、研究開発の加速などのための措置を講じ、I m P A C Tが目指す飛躍的なイノベーション創出に努めたいと思います。

以上で、第13回革新的研究開発推進会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

午前9時59分 閉会